



1. 担当者 【菊地滝太郎】

2. 理科の目標

- ① 身近な自然や身のまわりの現象に進んで関わるができる。
- ② 疑問をもち、それを解決するという目的意識をもって観察・実験を行うことができる。
- ③ 科学的にものごとを考えて、それを説明できる能力を育てることができる。
- ④ 身近な自然や身のまわりの現象についてのきまりや規則に対する理解を深めることができる。

3. 評価の観点・評価の方法について

観点	観点の目標		評価の方法
知識及び技能 [知識・技能]	自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの基本的な知識及び技能を身につけている。		<ul style="list-style-type: none"> ・レポート(結果等) ・[章末・定期]テスト ・授業・実験観察方法
	第1分野	身近な物理現象、化学変化と原子・分子、運動とエネルギーなど	
	第2分野	いろいろな生物とその共通点、気象とその変化、地球と宇宙など	
思考力・判断力・表現力等 [思考・判断・表現]	自然の事物・現象から問題を理解し、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。		<ul style="list-style-type: none"> ・レポート(考察等) ・[章末・定期]テスト ・授業・実験の発表
	第1分野	身近な物理現象、化学変化と原子・分子、運動とエネルギーなど	
	第2分野	いろいろな生物とその共通点、気象とその変化、地球と宇宙など	
学びに向かう力、人間性等 [主体的に学習に取り組む態度]	自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。		<ul style="list-style-type: none"> ・ノート ・ワークシート ・レポート ・授業の発言や態度 ・自己評価 ・ワーク
	第1分野	身近な物理現象、化学変化と原子・分子、運動とエネルギーなど	
	第2分野	いろいろな生物とその共通点、気象とその変化、地球と宇宙など	

○評価：上記3観点をA・B・Cの3段階で表す。

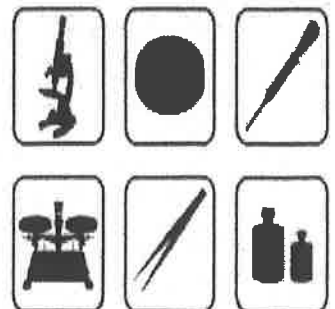
○評定：上記の観点別学習状況の評価をもとにして、1~5の5段階で表す。

4. 家庭学習のポイント

- ① 実験・観察や演示実験の前に内容を予習しておくとうい。
- ② 教科書を授業ノートやワークノート、レポート等を復習し、目的から考察までの内容を整理する。
- ③ 実験や観察を行ったときのレポート等は、その日のうちに書くようにするとよい。
- ④ 教科書の単元末の問題やワークの問題などできるだけ多くの問題を解き、授業及び実験の内容をより深める。

5. 使用教材

- ①教科書『新しい科学』東京書籍
- ②資料集『理科資料集』新学社
- ③ワーク『理科の自主学習』新学社
- ④確認テスト『観点別評価Wプリント』新学社



単元・教材（3年生の学習内容：140時間）

学期	単元	学習内容	学習活動
前期	化学変化とイオン	第1章 水溶液とイオン 第1節 水溶液と電流 第2節 電解質の水溶液の中で起こる変化 第3節 イオンと原子のなり立ち 第2章 酸、アルカリとイオン 第1節 酸性やアルカリ性の水溶液の性質 第2節 酸性、アルカリ性の正体 第3節 酸とアルカリを混ぜ合わせたときの変化 第3章 化学変化と電池 第1節 電解質の水溶液の中の金属板と電流 第2節 金属のイオンへのなりやすさのちがいと電池のしくみ 第3節 ダニエル電池 第4節 身のまわりの電池	<ul style="list-style-type: none"> ・水に電流が流れるのはどのようなときか調べる。 ・電解質の水溶液に電流が流れるとき、水溶液の中ではどのような変化が起こっているか調べる。 ・原子が電気を帯びるとすれば、どのような状態か考える。 ・酸性の水溶液やアルカリ性の水溶液には、それぞれどのような性質があるか調べる。 ・酸性やアルカリ性の水溶液には、それぞれ何が共通して存在しているか調べる。 ・酸の水溶液にアルカリの水溶液を加えていくと、どのような変化が起きるか調べる。 ・どのような金属板と水溶液の組み合わせならば、電流をとり出すことができるか調べる。 ・金属によって陽イオンへのなりやすさに差はあるのか調べる。 ・ダニエル電池はどのようなしくみで電流をとり出しているか調べる。 ・身のまわりの電池はどのような機器に、どのような目的で使われるか考える。
	生命の連続性	第1章 生物の成長と生殖 第1節 生物の成長と細胞の変化 第2節 無性生殖 第3節 有性生殖 第4節 染色体の受けつがれ方 第2章 遺伝の規則性と遺伝子 第1節 遺伝の規則性 第2節 遺伝子の本体 第3節 遺伝子やDNAに関する研究成果の活用 第3章 生物の多様性と進化 第1節 生物の歴史 第2節 水中から陸上へ 第3節 さまざまな進化の証拠 第4節 進化と多様性	<ul style="list-style-type: none"> ・生物が成長するとき、細胞はどのように変化するのか調べる。 ・無性生殖は、どのような生殖か考える。 ・有性生殖は、どのような生殖か考える。 ・親から子へ染色体が受けつがれていくときには、どのような決まりがあるのか考える。 ・親の形質は、どのようにして子や孫に受けつがれるのか考える。 ・遺伝子とは、どのようなものなのか考える。 ・遺伝子やDNAに関する研究成果は、どのように利用されているのか考える。 ・セキツイ動物の5つのグループの特徴を関連づけて比較すると、どのようなことがわかるかを考える。 ・陸上で生活するセキツイ動物はどのように進化してきたのか考える。 ・進化の証拠には、どのようなものがあるのか考える。 ・進化と地球上の生物の多様性には、どのような関係があるのか考える。
後期	運動とエネルギー	第1章 物体の運動 第1節 物体の運動の記録 第2節 物体の運動の速さの変化 第3節 だんだん速くなる運動 第4節 だんだんおそくなる運動 第2章 力のはたらき方 第1節 力の合成と分解 第2節 慣性の法則 第3節 作用・反作用の法則 第4節 水中ではたらく力 第3章 エネルギーと仕事 第1節 さまざまなエネルギー 第2節 力学的エネルギー 第3節 仕事と力学的エネルギー 第4節 仕事の原理と仕事率 第5節 エネルギーの変換と保存	<ul style="list-style-type: none"> ・水平面上で移動する物体の運動を記録タイマーで記録すると、何がわかるか調べる。 ・物体の運動の速さの変化をくわしく調べるには、どうすればよいか考える。 ・物体がだんだん速くなる運動に、力はどのように関係しているか調べる。 ・物体の運動の向きとは逆向きに一定の力がはたらき続けるとき、物体の速さはどのように変化するか考える。 ・1つの物体に、ある角度をもった2力がはたらくとき、どのように表すことができるかを調べる。 ・力がはたらいっていないときや、力がはたらいいても合力が0のとき、物体の運動はどうなるかを考える。 ・ある物体が別の物体に力を加えたとき、2つの物体の間でどのように力をおよぼし合うかを考える。 ・水中の物体にはたらく上向き力の大きさは、物体の何に関係するかを調べる。 ・エネルギーには、どのような形態があるか考える。 ・運動する物体の運動エネルギーと位置エネルギーには、どのような関係があるか考える。 ・仕事と力学的エネルギーには、どのような関係があるか調べる。 ・道具を使うと、仕事の大きさはどのようになるか調べる。 ・さまざまに形態を変えると、エネルギーの総量は、どうなるか考える。

	<p>プロローグ 星空をながめよう</p> <p>第1節 太陽</p> <p>第1章 地球の運動と天体の動き</p> <p>第1節 太陽の1日の動き</p> <p>第2節 地球の自転と方位, 時刻</p> <p>第3節 星の1日の動き</p> <p>第4節 天体の1年の動き</p> <p>第5節 地軸の傾きと季節の変化</p> <p>第2章 月と金星の見え方</p> <p>第1節 月の満ち欠け</p> <p>第2節 日食と月食</p> <p>第3節 金星の見え方</p> <p>第3章 宇宙の広がり</p> <p>第1節 太陽系の天体</p> <p>第2節 宇宙の広がり</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 太陽の表面は, どのようになっているか調べる。 • 太陽は, 1日でどのように動いて見えるか調べる。また, その理由を考える。 • 地球上の方位と時刻は, どのように決められているのか考える。 • 地球の自転と星の1日の動きは, どのような関係か調べる。 • 真夜中に見られる星座は, 1年を通してどのように移り変わるか調べる。 • 季節によるさまざまなちがいは, どのようにして生じるか調べる。 • 月が満ち欠けをくり返すのはなぜか調べる。 • 月食や日食は, どのようにして起こるのか考える。 • 金星が満ち欠けして見えるのはなぜか調べる。 • 太陽系の天体にはどのようなものがあり, どのような特徴をもっているか調べる。 • 私たちは, 宇宙のなかのどこにいるのか考える。
後期	<p>地球と私たちの未来のために</p> <p>第1章 自然のなかの生物</p> <p>第1節 生態系</p> <p>第2節 生態系における生物の関係</p> <p>第3節 炭素の循環と地球温暖化</p> <p>第2章 自然環境の調査と保全</p> <p>第1節 身近な自然環境の調査</p> <p>第2節 人間による活動と自然環境</p> <p>第3節 自然環境の開発と保全</p> <p>第3章 科学技術と人間</p> <p>第1節 さまざまな物質とその利用</p> <p>第2節 エネルギー資源の利用</p> <p>第3節 科学技術の発展</p> <p>地域とつながる</p> <p>自然災害と地域のかかわりを学ぶ</p> <p>終章 持続可能な社会をつくるために</p> <p>第1節 地球環境と私たちの社会</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 生態系では, 生物どうしの間にはどのような関係が見られるか考える。 • 生態系において, それぞれの生物はどのようなはたらきをしているのか考える。 • 生物のからだをつくる炭素は, 食物連鎖にともなって, 生態系をどのように移動しているのか考える。 • 生物と自然環境はどのようにかかわっているのか, 身近な自然環境を調査して考える。 • 自然環境に人間の活動がどのような影響をあたえているのか考える。 • 自然環境を保全するためにどのような活動が行われているのか調べる。 • 昔と今で, 変わってきた素材や製品にはどのような物があり, また, なぜ変わってきたのか考える。 • 今後, エネルギー資源をどう利用していけばよいか考える。 • 科学技術を利用することは, 私たちの未来をどのように変えることになるか考える。 • 自分たちの住む地域では, どのような災害が起こるおそれがあるか調べる。 • 未来の社会のために, 私たちは社会にどのようにかかわればよいか考える。

【英語科】 シラバス (3年)

1 担当者

高田 裕太朗

2 学習の目標

- ① 英語学習の基本を学び、意欲的に学習に取り組むことができる。
- ② 学習した内容を使って、身近な事柄を表現することができる。
- ③ 初歩的な英語を聞いたり読んだりして、内容を理解することができる。
- ④ 英語という言語に興味を持ち、その使い方の基礎を理解し、運用することができる。
また、英語学習を通して、その背景にある文化を理解することができる。

3 評価の観点と方法

次の3つの観点についてそれぞれ3段階 (A・B・C) で評価する。

評価の観点		方法
ア 知識・技能	○コミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付けている。 ○外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解している。	発言、課題に対する取り組み、定期テスト、パフォーマンステスト、等
イ 思考力・判断力・表現力等	○具体的で身近な話題について、互いの考えや気持ちなどを外国語で適切に伝え合っている。 ○聞いたり読んだりしたことなどを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現している。	自己紹介、友だち紹介、定期テスト、授業中の表現活動、英作文、パフォーマンステスト、等
ウ 主体的に学習に取り組む態度	○他者を尊重し、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。 ○言語やその背景にある文化に対する関心を持って、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	授業中の態度、授業中の発言、パフォーマンステスト、提出物の状況、等

4 学習のポイント

- ① Teacher's Talk や音源を繰り返し聞き、内容を推測しながら聞くことに慣れる。
- ② 新出単語やよく使う単語、表現を繰り返し発音したり使ったりし、繰り返し練習することによって定着を図る。
- ③ 新出文法についても、理解するだけでなく、それを使って自己表現する。
- ④ 習ったことを使ってやりとりをしたり、自分の気持ちや意見を発表したりする。

5 使用教材

- ・教科書 「Here We Go! ENGLISH COURSE」 (光村図書)
- ・ノート、ワーク、ファイル

6 年間の学習計画

学期	月	題材	主な学習内容	観点別評価具体例
	4	教科書 UNIT 1. School Life Around the World 2. Our School Trip 3. Lessons From	Round 2 Unit 1~8 ・パフォーマンステスト ・単語テスト ・英語の歌 〈Round 2 の内容〉	ウ 制限時間内に教科書をたくさん読むなど、積極的に反復練習する。 ウ 正確に本文を書き写すことができる。
	5	Hiroshima 4. AI Technology and Language 5. Plastic Waste	教科書の文字を見てたくさん読む。音の記憶が残っているうちに教科書の英文をノートに書き写す。	ア まとまった文量の英語を聞き取ったり読み取ったりできる。 イ 質問されたことに適切な返答をすることができる。 イ パワーアップ自己紹介をすることが

6	7	9	10	11	12	1	2	3	6. The Chorus Contest		できる。
									7. Tina's Speech		ア 英語特有の発音、読み方に関する知識がある。
									8. Goodbye, Tina		
									前期中間テスト	Round 3 Unit 1~8	ウ 制限時間内に教科書をたくさん読むなど、積極的に反復練習する。
										・パフォーマンステスト	ウ 正確に本文を書き写すことができる。
										・単語テスト	ア まとまった文量の英語を聞き取ったり読み取ったりできる。
										〈Round 3 の内容〉	イ 質問されたことに適切な返答をすることができる。
										穴あき音読などの活動で、本文を頭の中に残す。	ア 英語特有の発音、読み方に関する知識がある。
											イ 自分の好きな物や人について相手に伝えることができる。
									Round 4 Unit 1~8	ウ イラストのことを積極的に伝えようとしている。	
									・パフォーマンステスト	ア 自分の言葉を交えてイラストを説明できる。	
									・単語テスト	ア 先生やALTの話した英文を理解することができる。	
									・英作文（高校に行ったら、将来の夢、宝くじ、等）	イ 質問されたことに適切な返答をすることができる。	
									〈Round 4 の内容〉	イ 大切な人に感謝の気持ちを伝えることができる。	
									教科書のイラストを見て、英語で説明する。自分の言葉で教科書のストーリーを仲間に伝える。教科書の表現で活用できるものはたくさん使う。		
									〔3年間のまとめ〕	ウ 課題に積極的に取り組もうとしている。	
									・単語テスト	イ 自分の思いや考えを相手にわかりやすいように表現することができる。	
									・既習文法事項等の練習問題	ア 先生やALTの話した英文を理解することができる。	
									・英作文（海と山、映画、スマートフォン、自由時間、季節、読書、電子書籍、等）	イ 質問されたことに適切な返答をすることができる。	
									・過去の入試問題、等		

学習に対するワンポイントアドバイス

- とにかく授業が基本です。授業中はできる限り英語をたくさん使うことを意識しましょう。()。
- わからないことはすぐに英語担当の先生に質問をしましょう。そのままにしないことが大切です。
- 授業のあとは必ず復習し、内容を確実に深めましょう。内容を考えながら音読練習をすると効果的です。

美術科を学ぼう



1. 美術科としての特色とは

たくさんの用具や素材を扱いながら、自分の思いを表現していく学習です。思いは人それぞれ違った形で表現されます。思いを表現するためには試行錯誤しながら多くのことを考えます。これらの活動を通して次の3点が美術科の教科性になっています。

- ① 美的、造形的表現・創造 ②文化・人間理解 ③心の教育

これら3点を押さえ、生徒の自己実現を図り、生涯にわたって美術を愛好していく心情とその資質や基礎的能力を育成することをめざしています。

2. 指導計画

(1) 週時間数 1・2・3年生 週1時間の授業 (ただし1年生はI期は週2時間。)

(2) 授業計画、内容

学年	学期	題材名	学習の内容
1	前	美術との出会い・・・オリエンテーション	見つめると見えてくるもの・・・スケッチを勉強し、観察する姿勢や力を育てる。 文字っておもしろい・・・レタリングを学び、楽しい文字のデザインをする。(スケッチブック表紙) 折って、切って、巻いて・・・紙の加工法や技法を学び、紙を使ったデザインをする。
	後	暮らしに息づく土の造形・・・	陶土の感触を楽しみながら焼き物の持つ造形的な良さを味わい、成形から焼成までの制作行程を理解し、制作する。 自然の美しさから生まれた・・・身近な素材を試行合成し、自分の気持ちを投影した抽象画を制作する。 鑑賞・・・それぞれの作品に込められた思いや意図を感じ取る。
2	前	あなたの美を見つけて・・・オリエンテーション	心のイメージを形に・・・モダンテクニックとデッサンを組み合わせ、心象風景を表現する。 視点の冒険・・・視点や構図を工夫して、個性的な風景画を制作する。
	後	ジジジチカピカポッポッパ・・・	光や影の特性を理解し、空間に与える印象を創作する照明器具を制作する。 季節を楽しむ心・・・日本の伝統的な表現方法や色彩を学び、季節感を取り入れた作品をデザインする。 鑑賞・・・それぞれの作品に込められた思いや意図を感じ取る。
3	前	学びの探求と未来・・・オリエンテーション	仏像に宿る心・・・修学旅行前に仏像彫刻の良さや美しさを学ぶ。 今を生きる私へ・・・今の自分の内面を見つめ、自画像で表現する。
	後	自分へ贈る卒業記念品・・・	サンドブラストの手法を学習し、ガラス皿を制作する。 ルネサンスが目指したもの・・・ルネサンス期の美術について学び、良さや美しさを鑑賞する。 イメージを追い求めて・・・彫刻作品が持つ形や材料の特徴をとらえ、篆刻の印面ともち手を制作する。 どこまで修復すべきか・・・文化財を通して、美術文化の継承と創造について考える。 動きを生かして印象的に・・・伝達の意図を考え、動画でコマーシャルを制作する。 社会に生きる美術の力・・・3年間の美術の学習を振り返って、付いた力を感じ卒業後の見通しを持つ。

(3) 学習目標

第1学年 () 内は第2学年及び第3学年の学習内容を表しています。

- ① 楽しく(主体的に)美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を育てます。
- ② 対象を深く観察する力(深く見つめる力)、感性や想像力を高め(独創的・総合的な見方や考え方を培い)、豊かに発想し構想する能力や基礎的技能を身につけ、多様な表現方法や造形要素に関心を持ち(自分の表現方法を工夫し)、創意工夫し美しく表現する能力を育てます。
- ③ 自然や美術作品(文化遺産)などについての基礎的な理解や見方を広げ(心豊かに生きることと美術との関わりに関心を持ち)、良さや美しさなどを感じ取る鑑賞の能力を育てます。

3. 美術の学習の仕方

(1) 1学年

美術表現に関する基礎知識と基本技術を習得し作品を制作する。また、美術作品の鑑賞の基礎を学ぶ。

(2) 2学年・3学年

多様な美術表現の技術を生かした作品を制作する。また、心の内面を見つめ、自分の思いを感性豊かな表現で作品制作を行う。多様な美術作品の見方を学ぶ。

4. 授業の受け方

表現や鑑賞の活動(授業)を通して、創造活動の喜びが味わえるように、自分の思いを大切に最後まで粘り強く、苦心しながら試行錯誤を繰り返して作品の完成をめざす。

5. 美術科の評価の観点・方法

(1) 評価の観点

知識・技能、思考力・判断力・表現力等、主体的に学習に取り組む態度 の3観点で評価する。
(観点別学習状況の評価はA・B・C、評定は5段階で評価)

(2) 評価の方法 (それぞれの題材によって評価の方法は異なることがあります)

[知識・技能]

小テストや鑑賞、授業中の発表や制作の完成度、平面や立体での美術的な技能で評価します。

[思考力・判断力・表現力]

アイデアスケッチの様子、制作材料、用具、技法の工夫、授業中の制作の様子、途中や完成作品などから判断します。

[主体的に学習に取り組む態度]

制作への取り組み、完成作品の完成度、授業中の制作の様子や片付け、鑑賞での発表、プリントの内容などで評価します。

【音楽科】シラバス

1 【担当者】

1年～3年 亀山 広樹

2 【音楽科の目標】

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す。



各学年の目標

第1学年
(1) 曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。 (2) 音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながら良さや美しさを味わって聴くことができるようにする。 (3) 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむと共に、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。
第2学年及び第3学年
(1) 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。 (2) 曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながら良さや美しさを味わって聴くことができるようにする。 (3) 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむと共に、音楽によって生活を明るく豊かなものにし音楽に親しんでいく態度を養う。

3 【音楽科の評価の観点及び評価・評定の方法】

	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性
観点項目	・曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。	・音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ、感じたこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を評価しながら良さや美しさを味わって聴いたり、表現している。	・音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
評価方法	・実技テスト ・授業態度 ・学習プリント ・定期テスト	・実技テスト ・授業態度 ・学習プリント ・定期テスト	・授業準備 ・授業態度 ・学習プリント ・定期テスト ・実技テスト
評価	十分満足できる A おおむね満足できる B 努力を要する C	十分満足できる A おおむね満足できる B 努力を要する C	十分満足できる A おおむね満足できる B 努力を要する C

※教科の目標に照らして、学期ごとに各観点到に重みをつけて評定する場合があります。

4 【音楽科の学習のしかた】

中学校の音楽では、生涯を通して音楽を愛好し、音楽活動の楽しさや喜びを得て、豊かな情操を養うことを目指しています。授業の内容は、表現及び鑑賞の活動に分けられます。

表現の活動

- 歌 う こ と … 一人で歌う独唱、みんなで同じ旋律を歌う斉唱、各パートに分かれてハーモニーを作り合う合唱などを行います。
- 演奏すること… リコーダーを中心とした楽器や日本の楽器などを使って、ひとりで演奏したり、グループアンサンブルや合奏をしたりします。
- 創作すること… 簡単な節づくりや、和音づけをしたり、イメージしたことを自由に音で表現することなどを行います。

鑑賞の活動

- 聴 く こ と… すすんで音楽を聴いて、それぞれのよさや美しさを感じ取り様々な音楽に親しむ活動を行います。

- ・別府中学校では、クラスごとの混声合唱の発表の場として、毎年10月末～11月頃に合唱コンクールを行っていますので、前期後半は表現活動の中の歌うことが中心になります。
- ・ピアノを習うなど、以前から音楽にかかわっていると、楽譜を読む力や、楽器の演奏の取りかきりはよいですが、中学校の音楽の活動の中でどのように取り組んでいるかが一番大切です。自分の持てる力を精一杯発揮して一生懸命取り組めるといいですね。

5 【音楽科の授業で必要なもの】

- ・教科書（音楽・器楽）
- ・合唱曲集
- ・ファイル
- ・筆記用具
- ・アルトリコーダー

6 【指導計画】

	1年 (45 時間)	2年 (35 時間)	3年 (35 時間)
前 期	歌声をつくろう ・校歌 ・We'll Find The Way ・主人は冷たい土の中に ・エーデルワイス ・パフ	歌声をみがこう ・夢の世界を ・翼をください ・夏の日の贈りもの ・サンタルチア	日本 & 世界の愛唱歌に親しもう ・花 ・花の街 ・早春賦 ・帰れソレントへ ・Amazing Grace
	鑑賞 ・春 ・映画音楽から アルトリコーダーの基礎 ・リコーダー曲集より	鑑賞 ・フーガ ト短調 ・交響曲第5番（運命） リコーダーアンサンブル ・リコーダー曲集より	鑑賞 ・ブルタバ（モルダウ） ・バレエについて リコーダーアンサンブル ・リコーダー曲集より
後 期	合唱コンクールに向けて ・学年合唱曲 ・各クラスの自由曲 日本歌曲に親しもう ・赤とんぼ ・浜辺の歌	合唱コンクールに向けて ・学年合唱曲 ・各クラスの自由曲 日本の歌の美しさを味わおう ・夏の思い出 ・荒城の月	合唱コンクールに向けて ・学年合唱曲 ・各クラスの自由曲 箏に親しもう ・さくらさくら
	鑑賞 ・魔王 ・日本の伝統音楽 ・アジアの民族音楽 アルトリコーダーの基礎 リコーダーアンサンブル 送る会、卒業式の合唱曲	鑑賞 ・歌劇「アイダ」 ・歌舞伎「勧進帳」 ギターの基礎 ・ギター曲集より 送る会、卒業式の合唱曲	鑑賞 ・尺八曲 ・能 ・世界の諸民族の音楽 グループアンサンブル 送る会、卒業式の合唱曲

第3学年 技術・家庭科(技術分野)シラバス

1 技術分野の目標

技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を育成することを目指す。

2 学習内容 (通年ですが、家庭科と隔週になります。)

題材名	題材目標	主な学習内容
双方向性のあるコンテンツによる問題解決 計測・制御による問題解決	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータを利用した計測・制御の基本的な仕組みを知る。 ・情報処理の手順を考え、簡単なプログラムが作成できる。 ・フローチャートを用いてプログラムを作成し、動かすことができる。 ・課題を解決するプログラミングができる。 ・応用ソフトウェアを用いて情報処理ができる。 ・目的に応じたソフトウェアを選択し、活用できる。 ・作品について発表することができる。 ・生活の中のマルチメディアのしくみの概要がわかり、活用することができる。 ・デジタル機器を活用することができる。 ・双方向性のあるコンテンツによる問題解決 ・これからの情報の技術 	<ul style="list-style-type: none"> ・計測・制御の理解 ・プログラムのはたらきを知る ・フローチャートの仕組みを知る ・アプリケーションソフトウェアのはたらき ・プレゼンテーションソフトの活用方法 ・マルチメディアの特徴と利用 ・デジタル機器の活用方法 ・情報の技術の振り返り ・情報の技術と私たちの未来

3 評価の方法

- (1) 授業中の取り組み
- (2) 作業中の様子
- (3) 提出物
- (4) 定期テスト

	評価の観点	評価方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・知識及び技能を習得している。 ・すでに習得している知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で概念として理解したり、技能を習得したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペーパーテスト ・知識や技能を用いた発表
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・論述やレポートの作成、発表、話し合い、作品の制作や表現等 ・ポートフォリオ
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に学習に取り組もうとしている。 ・粘り強い取組を行おうとしている。自らの学習を調整しようとしている。 ※「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえた上で評価をします	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートやレポート ・授業中の発言 ・教師による行動観察

4 授業や家庭学習について

- (1) 何事に関しても興味関心を持とう。
- (2) グループの中で積極的に発言・行動し、活発な授業を行おう。

技術・家庭科(家庭分野)シラバス

1【担当者】植田君恵

2【技術・家庭科の目標】

生活に必要な基礎的な知識と技術の習得を通して、生活と技術の関わりについて理解を深め進んで生活を工夫し想像する能力と実践的な態度を育てる。

3【家庭分野の目標】

衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な衣食住に関する基礎的な知識と技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、これからの生活を展望して、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。

4【家庭分野の領域】

- A 家族・家庭生活
- B 衣食住の生活
- C 消費生活・環境

5【家庭分野の評価の観点の目標と評価の方法】

観点	観点の目標	評価の方法
知識・技能	家族・家庭の基本的な機能について理解を生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらにかかる技能を身につけている	定期テスト 単元テスト 実技テスト 製作物の提出 実習の様子等
思考力・判断力・表現力	これからの生活を展望し、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている	ノート、レポート等の提出物 授業中の発言等
主体的に学習に取り組む態度	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている	授業中の発言、態度 ノート、レポート等の提出物等

6【評定】

上記3観点の観点別学習状況の評価をA・B・C基にして、5段階で評定を表す。

技術・家庭科(家庭分野)からのお願い

学習したことを家庭で実践する機会があると生活の技術が向上します。
お手伝いは学習したことを家庭で実践する良い機会です。始めからうまくはできませんが、努力を褒めて、励まして下さい。生活の技能が向上し、自立を促します。

【保健体育科】シラバス 3年

1 【担当者】 目黒 拓 石川 美穂

2 【保健体育科の目標】

- ① 各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。
- ② 運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- ③ 生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

3 【保健体育科の評価観点と評価の方法】

	評価項目	評価方法
知識及び技能	① 各運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、な運動観察の方法を知っている。 ② 各領域に関連して高まる体力、健康・安全の留意点についての具体的な方法について理解できている。 ③ 運動やスポーツの多様性、運動やスポーツの意義や効果と学び方についての考えを理解できている。 ④ 各領域の運動の特性に応じた基本的な技能が身に付いている。保健分野について個人生活を中心として科学的に理解するとともに、基本的な技能を身に付けている。	・提出物では、学習ノート、学習カードなど ・定期テスト ・学習ノート ・学習カード ・技能テスト ・試合、発表会 ・教師による観察
思判表	① 生涯にわたって運動を豊かに実践するための自己や仲間の課題を発見し、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫できる。 ② 自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。	・学習ノート ・学習カード ・教師による観察
学人び間に性向等かう力	① 各単元に関心を持って、進んで取り組み、楽しもうとする。 ② 互いに協力し、練習や競技、試合、発表を行おうとする。 ③ 授業の約束や競技のルールを守り、「公正な態度」で活動することができる。 ④ 自分や仲間の健康や、活動場所・用具・服装の安全を確かめて活動しようとしている。	・教師による観察 ・試合、発表会 ・評価カード ・学習カード

A→「設定した評価規準」が十分に達成できる。 B→「設定した評価規準」がおおむね達成できる C→「設定した評価規準」に対し、やや不十分である。

・評定のつけ方について

	知・技	思判表	学び	評定 5段階
観点別評価	A	A	A	5
	・	・	・	4
	・	・	・	3
	・	・	・	2
	C	C	C	1

評定	評価の組み合わせ
5	AAA
4	AAB
3	ABB ABC ACC BBB BBC
2	BCC
1	CCC

4 【保健体育科学習の約束】

- ①チャイムまでに、指定の場所に集合する。
- ②服装をしっかりと整える。(体育着は、ハーフパンツの中に入れる。髪の毛が長い人はゴムで縛る。)
- ③忘れ物をしない。(ハチマキ・教科書・実技の本・ファイル・保健学習ノート・筆記用具など)
- ④号令に合わせ、大きな声で元気にあいさつをする。
- ⑤やむをえず、見学の際は、親の承認を必ず見せること。
(やりとり帳、またはメモ用紙等を書いてくる。)

※見学でもカードの記入・用具の準備や片づけ・その他やれる手伝いを進んでやること。

※ジャージは11月～3月まで着用可。それ以外は、教室で脱いで学習の場に行くこと。

5 【学習内容とねらい】

運動領域	種目	学習のねらい
体づくり運動	体ほぐしの運動 体力を高める運動	自分の体に関心を持ち、体力に応じた課題を持って体ほぐしをしたり、体力を高めたりします。
陸上競技(選択)	走り幅跳び ハードル走	自分の能力に応じて目標を持ち、競技したり記録を高めたりできるようにします。
ダンス(選択)	現代的なリズムのダンス	リズムに乗って体を動かしたり、感じを込めて踊ったりするとともに、作品の発表や鑑賞ができるようにします。
球技Ⅰ(選択)	バレーボール ハンドボール	自分の能力やチームの課題に応じて運動の技能を高め、作戦を立て攻防のあるゲームができるようにします。
器械運動(選択)	マット運動 跳び箱	自分の能力に応じて運動の技能を高め、技が円滑にできるようにします。
陸上競技	長距離走	自分の能力に応じて目標を持ち、競技したり記録を高めたりできるようにします。
球技Ⅱ(選択)	サッカー	自分の能力やチームの課題に応じて運動の技能を高め、作戦を立て攻防のあるゲームができるようにします。
球技Ⅲ(選択)	ソフトボール バスケットボール	自分の能力やチームの課題に応じて運動の技能を高め、工夫してゲームができるようにします。
保健	「健康な生活と病気の予防」・「健康と環境」について、考えたり、調べたりしながら、正しい知識を身に付けられるようにします。	
体育理論	「文化としてのスポーツの意義」について、考えたり、調べたりしながら、正しい知識を身に付けられるようにします。	

第3学年「道徳」シラバス

- 1 【担当者】 各学年担当を原則とする。
- 2 【道徳教育とは】 人間が本来持っているよりよく生きたいという願いや、よりよい生き方を求め実践する人間の育成を目指し、その基盤となる道徳性を養う教育活動
- 3 【道徳の目標】 人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他の社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心を持ち、伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図るとともに、公共の精神を尊び、民主的な社会及び国家の発展に努め、他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献し未来を拓く主体性のある日本人を育成するため、学校の教育活動全体を通じて道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うこと
- 4 【指導場面】 道徳の時間（週1時間）をはじめ各教科、総合的な時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて行う。
- 5 【道徳の時間における指導内容】 *道徳は、学年を通して文章による評価があります。
 - A 主として自分自身に関すること
 - (1) 自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと
 - (2) 望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け、安全で調和のある生活をする
 - (3) 自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求すること
 - (4) より高い目標を設定し、その達成を目指し、希望と勇気を持ち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げること
 - (5) 真実を大切にし、真理を探究して新しいものを生み出そうと努めること
 - B 主として人との関わりに関すること
 - (6) 思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること
 - (7) 礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとること
 - (8) 友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと
 - (9) 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなもの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと
 - C 主として集団や社会との関わりに関すること
 - (10) 法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切に、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めること
 - (11) 正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めること
 - (12) 社会参画の意識と社会連帯の自覚を高め、公共の精神をもってよりよい社会の実現に努めること
 - (13) 勤労の尊さや意義を理解し、将来の生き方について考えを深め、勤労を通じて社会に貢献すること
 - (14) 父母、祖父母を敬愛し、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築くこと
 - (15) 教師や学校の人々を敬愛し、学級や学校の一員としての自覚をもち、協力し合ってよりよい校風をつくるとともに、様々な集団の意義や集団の中での自分の役割と責任を自覚して集団生活の充実に努めること
 - (16) 郷土の伝統と文化を大切に、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬の念を深め、地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、進んで郷土の発展に努めること
 - (17) 優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献するとともに、日本人としての自覚をもって国を愛し、国家及び社会の形成者として、その発展に努めること
 - (18) 世界の中の日本人としての自覚をもち、他国を尊重し、国際的視野に立って、世界の平和と人類の発展に寄与すること
 - D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること
 - (19) 生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること
 - (20) 自然の崇高さを知り、自然環境を大切にすることの意義を理解し、進んで自然の愛護に努めること
 - (21) 美しいものや気高いものに感動する心を持ち、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深めること
 - (22) 人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きること喜びを見いだすこと
- 6 【使用教材】 新しい道徳3（東京書籍） 彩の国の道徳 『自分を見つめて』、『心の絆』、『未来に生きる』（埼玉県教育委員会） 道徳ポートフォリオ

主題名一覧表(第3学年)

※郷土・偉人教材は、学年の実態に応じ、内容項目の近い主題と入れ替え、指導する。

学期	月	週	主題名	内容項目	教材名	出典
前期	4	2	言葉にそえて	B(7)礼儀	言葉おしみ	新しい道徳 東京書籍
		3	働くことの喜びとは	C(13)勤労	たんぼぼ作業所	新しい道徳 東京書籍
		4	いじめのない世界へ	C(11)公正, 公平, 社会正義	無実の罪	新しい道徳 東京書籍
	5	2	いじめのない世界へ	A(1)自主, 自律, 自由と責任	ある日の午後から	新しい道徳 東京書籍
		3	いじめのない世界へ	※複数内容項目	いじめから目をそむけない	新しい道徳 東京書籍
		4	周りの人に支えられて	B(6)思いやり, 感謝	植生の宿	新しい道徳 東京書籍
	6	1	信念をつらぬいて生きる	D(22)よりよく生きる喜び	背番号15が歩んだ道—黒田博樹	新しい道徳 東京書籍
		2	家族の支えがあるから…	C(14)家族愛, 家庭生活の充実	背筋をのばして	新しい道徳 東京書籍
		3	見方を変えれば	A(3)向上心, 個性の伸長	ほくにもこんな「よいところ」がある	新しい道徳 東京書籍
		4	郷土に息づく心ふれて	C(16)郷土の伝統と文化の尊重, 郷土を愛する態度	島唄の心を伝えたい	新しい道徳 東京書籍
	7	1	先人の思いとともに	C(17)我が国の伝統と文化の尊重, 国を愛する態度	花火と灯ろう流し	新しい道徳 東京書籍
		2	日々を見つめて	A(2)節度, 節制	早朝ドリブル	新しい道徳 東京書籍
	9	1	神秘の世界へ	D(21)感動, 畏敬の念	ハッチを開けて, 知らない世界へ	新しい道徳 東京書籍
		2	いのちを考える	D(19)生命の尊さ	生まれてきてくれてありがとう—助産師からのメッセージ	新しい道徳 東京書籍
		3	いのちを考える	D(19)生命の尊さ	くちびるに歌をもて	新しい道徳 東京書籍
		4	いのちを考える	D(19)生命の尊さ	人間の命とは—人間の命の尊さ・大切さを考える	新しい道徳 東京書籍
	10	1	自分の生活を見直して	A(2)節度, 節制	スマホに夢中!	新しい道徳 東京書籍
		2	よりよい社会の実現	C(12)社会参画, 公共の精神	すべての人に読書の楽しさを	彩の国道徳 未来に生きる
		3	将来の自分を見つめて	C(13)勤労	好きな仕事か安定かなやんでいる	新しい道徳 東京書籍
		4	次世代のいない手として	C(10)遵法精神, 公德心	缶コーヒー	新しい道徳 東京書籍
11	1	次世代のいない手として	C(10)遵法精神, 公德心	缶コーヒーをめぐるやりとりの場面をやってみよう	新しい道徳 東京書籍	
	2	情報モラルと友情	B(8)友情, 信頼	合格通知	新しい道徳 東京書籍	
	3	恩恵に感謝して	D(20)自然愛護	よみがえれ, 日本海!	新しい道徳 東京書籍	
	4	差別や偏見をなくすために	C(11)公正, 公平, 社会正義	伝えたいことがある	新しい道徳 東京書籍	
12	1	伝統を創るもの	C(15)よりよい学校生活, 集団生活の充実	受けつがれる思い	新しい道徳 東京書籍	
	2	より高い目標を目指して	A(4)希望と勇気, 克己と強い意志	高く遠い夢	新しい道徳 東京書籍	
	3	心から信じあえる友を	B(8)友情, 信頼	アキハバの友情—スピードスケート小平奈緒と李相花	新しい道徳 東京書籍	
1	2	価値をめぐって	(9)相互理解, 寛容	しあわせ	新しい道徳 東京書籍	
	3	コミュニケーションの原点を見つめて	B(9)相互理解, 寛容	心にしみこむ“言葉”のカー池上彰	新しい道徳 東京書籍	
	4	弱さと向き合って	D(22)よりよく生きる喜び	足袋の季節	新しい道徳 東京書籍	
	2	1	その子の世界, 私の世界	C(18)国際理解, 国際貢献	その子の世界, 私の世界	新しい道徳 東京書籍
2		その子の世界, 私の世界	C(18)国際理解, 国際貢献	そのこ	新しい道徳 東京書籍	
3		新しいものを生み出すには	A(5)真理の追究, 創造	日本から世界へ, そして宇宙へ—インスタントラーメンの誕生	新しい道徳 東京書籍	
3	1	人っていいなあ—思いやりの連鎖	B(6)思いやり, 感謝	一冊の漫画雑誌	新しい道徳 東京書籍	
	2	自ら社会参画を	C(12)社会参画, 公共の精神	社会からの無言の賞賛を感じる感性	新しい道徳 東京書籍	
郷土・偉人教材			謙虚に他に学ぶ—寛容な心—	B(9)相互理解, 寛容	入試の朝	彩の国の道徳 『自分を見つめて』11
			この世に生まれた喜び—命のつながり—	D(19)生命の尊さ	命のタスキ	彩の国の道徳 『自分を見つめて』15
			本当の豊かさとは—みんなが豊かになること—	C(16)郷土の伝統と文化の尊重, 郷土を愛する態度	豊かな日本を目指して—日本近代経済社会の父・渋沢栄一—	彩の国の道徳 『自分を見つめて』19

令和6年度特別活動シラバス

1. 全体統括 上原 涼也

2. 特別活動とは

学級活動、生徒会活動、学校行事の3つで構成されている。これらの活動を通して、好ましい人間関係を形成するために必要な能力や態度、所属する集団の向上に努めようとする態度、社会の一員としての自覚と責任ある態度、人間としての生き方を探求し自己を生かす能力や態度などを養う教育活動のことを指す。

3. 目標

望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。

4. 学級活動の目標と内容

目標 学級活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる。

学級活動の3つの内容

- (1) 学級や学校の生活づくり
- (2) 適応と成長及び健康安全
- (3) 学業と進路

ねらい

学級活動は、各学級を単位として、学級や学校生活への適応を図るとともに、その充実と向上、当面する諸課題への対応及び健全な生活態度の育成に資することをねらいとする。

学級活動とは

- (1) 学級を単位として行われる生徒の自主的、実践的な活動である。
- (2) 学級を場として、学級や学校の生活への適応を図る活動である。
- (3) 学級生活を基盤に、集団や社会の一員としての望ましい資質や能力・態度を育てる活動である。
- (4) 当面する諸課題の解決を通して生徒自らが自己指導能力を養う活動である。
- (5) 特別活動における人間としての生き方に関する指導が行われる中心的な活動の場である。

3年生の学習内容

		活動計画	ねらい
前 期	4	<ul style="list-style-type: none"> ・最上級生としての抱負を考えよう ・学級目標をつくろう ・学級組織をつくり、係等を決定しよう 	学級や学校の生活づくり ” ”
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・学級や学年の諸問題を解決しよう ・3年生としての学習の心構えを考えよう ・修学旅行の計画を立てよう 	学級や学校の生活づくり ” ”
	6 7	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒総会に積極的に参加しよう ・上級学校の見学、体験を計画しよう 	学級や学校の生活づくり 学業と進路
	9	<ul style="list-style-type: none"> ・体育祭を盛り上げよう ・先輩の進路選択から学ぼう ・進路先を調べよう 	学級や学校の生活づくり 学業と進路 ”
	10	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなの力で清沼祭を成功させよう ・自己の生き方について考えよう ・友達のよさを知ろう ・前期の学級生活を振り返ろう 	学級や学校の生活づくり 学業と進路 ” 学級や学校の生活づくり
後 期	10	<ul style="list-style-type: none"> ・後期の学級組織を作ろう 	学級や学校の生活づくり
	11	<ul style="list-style-type: none"> ・学習上の問題点や悩みを解決しよう 	学業と進路
	12	<ul style="list-style-type: none"> ・生命の誕生について考えよう ・進路計画を最終検討しよう ・薬物乱用などの害について学ぼう 	適応と成長及び健康安全 学業と進路 適応と成長及び健康安全
	1	<ul style="list-style-type: none"> ・性について正しく知ろう ・働くことと生きがいについて考えよう 	適応と成長及び健康安全 学業と進路
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方から生き方について学ぼう 	学業と進路
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業に向けて3年間のまとめをしよう ・自分の夢や生き方について語りあおう 	学級や学校の生活づくり 学業と進路

3年テーマ「国際理解・生き方」(70時間)

		単元	○学習活動 ・具体的な活動例	教師の支援・指導上の留意点						
4	32	日本の古都に学ぼう	○オリエンテーション ・総合的な学習の時間のねらい、今年度の学習内容、学習方法等について知る。 ○NIEに取り組む(通年) ・文を読む力、書く力を養う。 ・世の中のことを知る。 ・情報を集める、まとめる、提示する力を養う。 ・聞く人に分かりやすく説明する、発表する力を養う。 ○日本の古都に学ぶ 【課題の設定】 ・修学旅行の事前学習を通して研究テーマを設定する。 (例)古都の文化、古都の地形、古都の歴史 古都の生活、古都と熊谷の比較等 【情報の収集】 ・参考文献等で調べ学習 ・現地調査や検証活動を行う。 【整理分析】 ・修学旅行記の作成方法を学ぶ。 ・学習を振り返り、資料の整理と分析に取り組む。 【まとめ・表現】 ・旅行記を作成する。 ・旅行記の展示会、発表会を行う。 ・活動の自己評価を行う。 ○NIEに取り組む(通年) ・文を読む力、書く力を養う。 ・世の中のことを知る。	・学年全生徒を対象に第3学年の総合的な学習の時間の進め方を説明し、1年間の学習の見通しを立てさせる。 ・テーマ設定について、神川林間や長瀨自然体験の経験をもとに、過去の事例や資料も提供し、生徒の視野を広げる。 ・情報の収集の仕方を例示する。 ・国語、社会、外国語、美術などの学習との関連を図り、旅行記の作成方法を示す。 ・過去の優れた作品を提示する。 ・調査・収集した資料をまとめ、俳句や写真等を取り入れながら旅行記を作成し、歴史や文化への関心を深めさせる。 ・意見交換や質疑応答の機会を設ける。						
5			9	26	自分の将来をデザインしよう	○自分の将来をデザインする ・自分の夢に向かうために今必要なことを考える。 ・中学卒業後の進路について考える。 ○自らの課題を見つけ、意欲的に学習に取り組む ・生徒同士の学び合いを通して、基礎学習の定着や学習意欲のさらなる向上を図る。 ・学習に対する悩みや不安を相談し合い、学年全員で乗り越えようとする気持ちを持つ。 ・面接練習を通して、コミュニケーション能力の向上を図る。	・自分の将来のために課題となることに気づかせる。 ・中学卒業後の進路について自分の考えを固めさせる。 ・無記名で悩みを書かせ、それについてグループやクラスで解決策を考えることで、不安を軽減させる。(時期をみて何度か行う) ・5教科の学習について学び合いを行い、集団での学習能力の向上を図る。 ・入試での面接を想定した面接練習を行うことで、自分の長所や短所、自己PRなど全員ができるようにする。 ・入試を乗り切るために必要な生活習慣やマナーについて身に付けさせる。			
10			11			1	12	別府中に感謝 貢献しよう	○自分の生き方の発見 ・自分の将来(夢)を実現していくためには今何をするか考え実践する。	・これまでに学んできたことをもとに、将来の夢(目的)をもたせ、実現に向けて支援を行う。
11			12			2				
12						3				

別府中 当たり前の20ヶ条

- 1 あいさつは 先にするのが 当たり前
- 2 時間は 守って生活するのが 当たり前
- 3 授業中は 真剣に受けるのが 当たり前
- 4 清掃は きれいに終了するのが 当たり前
- 5 食事は きれいに食べるのが 当たり前
- 6 服装は 正しく着るのが 当たり前
- 7 約束は 守って行動するのが 当たり前
- 8 間違いは すぐに訂正するのが 当たり前
- 9 ありがとう・ごめんなさいを 素直に言えるのが 当たり前
- 10 友だちは 大切にするのが 当たり前
- 11 朝ご飯は しっかり食べるのが 当たり前
- 12 呼ばれたら 「はい」と返事が 当たり前
- 13 部活動 がんばることが 当たり前
- 14 困っていたら 優しくするのが 当たり前
- 15 悪いこと 悪いと言えるのが 当たり前
- 16 良いことは 進んでやるのが 当たり前
- 17 持ち物は 必ず確認するのが 当たり前
- 18 悩んだら 人に相談するのが 当たり前
- 19 いじめは 絶対しないぞ 当たり前
- 20 嫌なこと 誰もが同じだ 当たり前



